

今日から使える！ シーネ固定の基本



海透優太 著 (独立行政法人地域医療機能推進機構若狭高浜病院整形外科医長／臨床研修センター長)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続



▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

このコンテンツを読んでワカルこと・デキルこと

- ▶シーネ固定が必要な患者さんに、誰でも適切なシーネ固定がデキル
- ▶すべての固定に通じる巻き方の基礎を認識デキル
- ▶障害部位に合わせた適切な固定方法を選択でき、注意点を示すことがデキル

大原則 骨折を疑ったら、固定をする！

1. すべての固定に通じる巻き方の基礎を理解できる

使用するシーネはファイバークラスにフェルトパッドが一体になったギプスシーネを想定している。包帯とシーネの詳細は**動画1**、**動画2**を参照。



動画1 包帯の種類



動画2 シーネの種類

解説

(1) 包帯

- ・用途に合わせて太さを決める。
- ・指や手関節には2号(50mm幅)。
- ・手関節などには3号(75mm幅)。
- ・下腿や足関節には4号(100mm幅)。
- ・弾性(弾力)包帯のサイズはメーカー毎に多少違いがある。

(2) シーネ

- ・ファイバーグラス性のシーネを使用する。
- ・上肢には3号(7.5cm), 下肢には4号(10.0cm)を用いる。